

第7号
令和4年3月29日発行

自主学習通信



～引き出せ！子どもの力！！～

目次

- P1 令和3年度を終えて 都島区担当教育次長 大畠 和彦
- P3 令和3年度第3回自主学習推進チーム会議について
- P5 「自主学習を充実・発展させるための“仕掛け”づくり(案)」
大阪市立横堤中学校 校長 井寄 芳春
- P7 「令和3年度 第3回 自主学習推進チーム会議資料」
大阪市立関目小学校 校長 石井 力
- P10 自主学習推進チームメンバー「学び隊」からのメッセージ
- P12 事務局から

大阪市教育委員会事務局
第2教育ブロックグループ

令和3年度を終えて

自主学習通信も令和3年3月に第1号を発行し、1年が過ぎました。

この1年間、学校現場は新型コロナウィルス感染症の第4波、第5波、第6波と3つの波に直面しました。日々の学校運営が極めて大変な状況の中、各校にて工夫を凝らし、コロナ対応にご尽力いただいた諸先生方のご努力にあらためて感謝申し上げます。

この自主学習通信も今回で第7号まで発行することができました。お陰様で自主学習ノートも現在、小学校で100%、中学校では86%の学校でご使用いただいている。また、ノートだけでなく、さまざまなツールをご活用いただき、自主学習の推進にご尽力いただき、学力向上をはじめ、「自主学習習慣の確立」という我々の大きな目標達成も少しずつではありますが、見えはじめてきたのではないかと思っています。

さて、自主学習ノートも学校によってはかなり浸透してきており、校内掲示をはじめとする児童生徒間での共有やコンテストなど、自主学習ノートの推進策もさまざま実施され、マンネリ化を避ける為にも、そろそろ次の一手が必要になってきた学校もあると思います。

そこで、今後の方向性として次の2点をポイントとしてあげておきます。



1つは、自主学習ノートも「導入期・充実期・発展期」というように、段階を意識して対応していく必要があるということです。今、ご自身が担当されているクラスはどの位置にあるのか？明確に意識しながら、さまざまな工夫を凝らしていく必要があります。

「導入期」は、とにかく何でも良いから自分の興味のあるものを、それぞれが好き好きにノートを書いてくる段階です。先生のスタンプや一言コメントでさらにやる気をもってもらう時期です。この段階は決して焦らず、児童生徒のやる気を信じて待つ時期でもあります。

「充実期」は、友達同士で自主学習ノートを共有したり、学内掲示をしたり、コンテストを実施したり、さまざまな工夫を凝らして、横展開をしていく時期です。横展開をすることにより、さらに自分自身の自主学習ノートに工夫を凝らすことができます。今、まさに充実期に入られている学校が多いのではないでしょうか？



そして最後の「発展期」は授業との接続（リンク）を意識した自主学習ノートです。あらかじめ、自主学習ノートの提出を意識して、授業の復習として習熟度別にテーマを与え、自主学習をすることにより、既習の授業がよりわかる復習の仕掛けをする。あるいは、次の新しい単元に入る前に予習の仕掛けとして、テーマを与え、自主学習をすることにより、新しい単元の授業理解がスムーズになるなどのやり方です。自主学習習慣が身につくと同時に授業への集中力も高まり、協動的な学びもでき、先生方にとっての授業効果が格段にあがり、学力向上にも直結していくことだと思います。決して宿題（やってこない子が理解できない授業はしない）にするのではなく、自主学習ノートで予習・復習をすることにより、より授業への理解が深まることをめざしてください。

そしてもう1つのポイントは「自主学習（ノート）のデジタル化」です。navima等を活用し、ノートの提出が苦手な児童生徒もデジタル教材であれば、自主学習が進む可能性もあります。今回のコロナの第6波では、たくさんの学校が学校（学年・学級）休業になり多くの学校で一人1台パソコンを持ち帰り、学びの保証として学習を実施した事例が報告されています。一人1台パソコンを活用して「どんな自主学習（ノート）のデジタル化ができるか？」今後はこのテーマをみんなで議論、研究をして発展させていくことが必要ではないでしょうか？



自主学習ノートの最終目標はノートの提出にあるのではなく、個々人がどんな環境でも自ら学ぶ「自主学習習慣の確立」にあります。

中学校を卒業して、高等学校に進学又は社会に出るときには、ノートはもう必要ありません。自らの力で生涯、学習を継続することができ、自らの力で学力を高めることができる児童・生徒の育成こそが我々の目標です。



次年度も引き続きどうぞよろしくお願いします。

第2教育ブロック代表

都島区担当教育次長

大畠 和彦

令和3年度 第3回自主学習推進チーム会議



令和4年3月7日(月)に第3回自主学習推進チーム会議を行いました。開会にあたり、大畠 都島区担当教育次長から「全校一律の取組ではなく、『導入期、充実期、発展期』とそれぞれの学校の状況に合った取組を進めていくことが必要であり、また、自主学習ノートの活用から、ICT機器の活用へと移行していくことについて議論を進めてほしい。」とご挨拶を頂戴しました。また、「児童生徒に自主学習習慣を身につけてもらうことが最終のゴールであり、ゴールに向かわせるために何が必要か。義務教育の9年間を通しての一環した取組は難しいが、その中でルールを作成し、段階に応じた取組を進める必要がある。」とご助言いただきました。

次に、横堤中学校 井寄校長先生に「自主学習を充実・発展させるための“仕掛け”づくりーあらためて「教科書」の活用方法を見直すー」というテーマでお話をさせていただきました。「教科によって教科書の使用状況は異なっているが、最も身近な存在であり、最も重要な教材である教科書を活用し、課題意識をもって学ぶことができる姿勢を育成していく。そのためには、教科書に掲載されている様々な活動のヒントに着目させ、授業につなげることで、生徒の主体的な学びの姿勢につなげていく。」ことを、実際の教科書のコピーを例に提唱していただきました。



また、関目小学校 石井校長先生からは当日の協議題でもある「充実期、発展期での取組方法及びその課題」「自主学習においてICT機器を活用するために必要なこと」の2点について、お話をさせていただきました。「導入期においては『自学の芽』を養い、学校全体でいかに活性化させるかということに注力する中で、『個人差がみられること』『一定のルール作りの必要性』『宿題との両立を含めた自主学習の位置づけ』という課題が浮き彫りになってきた。充実期においては、学校全体で自主学習の必要性や意義について再確認し、『全国学力・学習状況調査』における四分位層の第4区分に属する児童生徒の底上げを図ることが大切である。」というご提案をいただきました。



当日、両校長先生がご準備くださった資料については、このあとご紹介させていただきます。

石井校長先生、井寄校長先生、お忙しい中資料のご準備等ありがとうございました。



令和3年度自主学習に関するアンケート結果について

第2ブロック各校に回答していただいた「令和3年度自主学習に関するアンケート(管理職用)」について、3月1日までに回答いただいたものを集計し、分析を行いました。(回答数 81校／114校中)

- 自主学習習慣の確立に向けての取組は、小学校では学校単位で、中学校では学校全体の取組のほか、学年単位や教科単位での取組が多くみられた。
- 自主学習ノートを活用している学校は、小学校では98%、中学校では81%であった。
- navimaの活用率は、小中学校ともに100%であり、活用目的としては、学校での活用にしろ、家庭での活用にしろ、いずれの場合であっても自主学習での活用が最も多い。
- 自主学習の取組が進むにつれ、児童生徒に主体的に学ぶ姿勢がみられるようになったと回答する学校が、昨年度に比べ増加している。



アンケート結果から、自主学習が児童生徒の学習意欲の向上につながるということ等の好結果を読み取ることができました。

また、第2教育ブロック全校のアンケート結果(最終版)については、後日各校に配付いたしますので、今後の取組の参考にしていただきますようお願いいたします。

校務支援システムの切り替え時期と重なったため、各校におかれましては、アンケートの回収方法等、工夫して実施してください、ありがとうございました。

「導入期から充実期、発展期へ」

今回の会議では、「導入期から充実期、発展期へ」をテーマとしました。これまでには、導入期における工夫や課題について、話し合いや情報発信を行ってきました。しかし、第2回自主学習推進チーム会議において、教師の疲弊感を勘案しつつ自主学習を継続させていくことが必要であるという共通認識を持つことができましたので、今回の会議ではその内容を深化・充実させるために必要なことは何かをテーマとして設定いたしました。



1. 充実期、発展期での取組方法、課題とはなにか。
2. 「ICT端末と自主学習」をどのように結び付けていくのか。

これらの議題について、2つのグループに分かれ協議しました。その内容について、一部ですがご紹介します。

1. 充実期、発展期での取組方法、課題とはなにか。

- 宿題の在り方、課題の出し方に対して抜本的な見直しが必要である。知識面は教師が進捗状況を把握しながらnavimaで補うことができる。教師にとっても児童生徒にとっても負担のない形を考えなければならない。
- 小学校高学年～中学校における塾や部活動との両立が課題である。また、学習内容がテストに直結するという概念が子どもたちに根強くある。その概念をどのように払拭するのかということも課題である。
- 継続させるためには、教師の負担を軽減し、児童生徒も手軽に取り組むことのできる自主学習の形を考えていく必要がある。これまでの取組を「教師の負担軽減」という視点からの精査、これまでの取組の効果検証、児童生徒に取り組ませたい内容のベースラインづくりが必要である、その上で有効であったものをこの会議から発信できたらよいと考える。
- 真新しいものではなく、教科書を中心に、既存のものを発展させていく方向性を基盤に据えることが大切である。
- 授業をベースにした取組を行う。予習の段階で各自が興味を持ったことを調べさせたり、復習としてもっと学びたいと思うことを調べさせたりする活動で学びに深みが生まれる。授業を大きなパズルと仮定したとき、自分が自主学習等で調べたことが、パズル(=授業)完成の重要なピースとなる面白さを体感させることが大事である。



2. 「ICT端末と自主学習」をどのように結び付けていくのか。

- 朝の時間を活用するなど、日ごろから一人一台端末に触れる時間や機会を増やす工夫が必要である。
- 単元ごとに調べ学習をするなど、ICT機器を積極的に活用している。教室内にプリンターがあれば、さらに活用が進むのではないか。
- 表やグラフの作成を容易にできるソフトなどがあれば、探究的な学習を進めるのに役立つ。
- 一人一台端末の使用を価値づけし、使用できていることをほめて、自己肯定感を高める工夫が必要。(児童生徒間に、ICT機器の運用能力に差があるため。)
- 教師間で、ICT機器を用いた課題や授業での活用実践例等を共有することが必要である。

このように様々な意見が出されました。

次年度以降、自主学習推進チーム会議では、今回確認した課題等について研究し、自主学習通信等を通して、情報発信に努めてまいります。

自主学習推進メンバー「学び隊」のみなさん、公務多忙の中、資料作成や会議へのご参加、どうもありがとうございました。

次年度も、さらに充実した情報を発信できるよう頑張るでござるよ。



横堤中学校 井寄校長先生から提唱いただいた「自主学習を充実・発展させるための“仕掛け”づくり(案)」です。

2022/3/7

【第3回 自主学習推進チーム会議】

「充実期、発展期での取組方法、課題とは何か」

自主学習を充実・発展させるための“仕掛け”づくり(案)

—あらためて「教科書」の活用方法を見直す—

大阪市立横堤中学校 井寄 芳春

1. 第2回会議で示された課題—学習習慣の形成から学習の継続化・高度化へ—

- 「『導入期』から『充実・発展期』へとシフトチェンジの時期を迎えたのではないか」
- 「教員の負担を軽減した形で持続可能な取組を工夫していく必要があるのではないか」
- 「自主学習の最終目標は、自ら課題意識をもって学ぶ姿勢の育成である」

(「自主学習通信第4号(2頁)」より)

2. 自主学習のバージョンアップ—自主学習を充実・発展させるために—

- 「学習スキル」を育成する→自主学習の目的・方法を教える
- 「仕掛け」のレパートリーを増やす→自主学習への意欲を高める
- 「学習環境」を整備する→自主学習のためのツール(デジタル・アナログ)を生かす

3. 教科書を豊かに発展させた自主学習—教科書活用の多彩化・高度化—

- 自主学習の基盤・素材としての教科書
 - 教科書を教える・教科書で教える→教科書を生かして使う・教科書から発展させる
- 教科書から自主学習課題を選ぶ・アレンジする
 - 身につけたいこと(習得)、調べたい・試したいこと(発展)
- 教科書を参考に、価値ある課題を設定させる、有効な問い合わせ方、説明の仕方を身に付けさせる
 - 問う力、問い合わせ続ける力、学び続ける力を養う、発展的な問い合わせをつくる
- 教科横断的・校種縦断的な教科書活用を考える
 - 教科書ベースのカリキュラム・マネジメント、校内研修のあり方

4. 教科書と学習者用端末を活用した自主学習—アナログとデジタルのハイブリッド型学習—

- ネットワークを活用した情報検索、調べ学習、探究学習の取り組み
 - 教科書のキーワード(重要語)に関してさらに深く調べる、最新の情報を調べる
- 学習者用端末をデジタルポートフォリオとして活用する
 - 自主学習の成果物(レポート、制作物等)を蓄積し、成長のプロセスを自己評価する
- デジタルドリル(navima)を活用した自主学習
 - スマートステップでのトレーニングによる補習・補強、「個別最適化された学び」へ
- 学習者用デジタル教科書やデジタル教材の有効活用
 - 家庭での自主学習(予習)から集団解決・「協働的な学び」へ

【参考資料】

横堤中学校で今年度4月に教職員向けに配付された「研修だより」です。「教科書を活用し、アナログとデジタルのハイブリッドを進めていこう」と記載されています。

【社会とつながり、地域から信頼され、自立と協働の力を育む学校
—よりよい学びを創り出すカリキュラム・マネジメントを通して—】

研修だより

授業づくりのポイント

2021.4.19 No2
<横中・校長室>

1. 教科書活用のバージョンアップを!!

大阪府で緊急事態宣言が発出された場合、大阪市立の全小中学校約420校の授業について、原則オンライン形式とする方針が出されました（松井市長）。

重要なことは、**子どもたちの学びを止めないこと**であり、オンライン授業はそのための手段です。オンラインも適宜、有効に活用しながら、子どもたちの学びをどう継続させ、学力保障に結びつけるのかということが問われています。

着目したいのが**教科書**です。教科書は、生徒のだれもが、いつでも持っており、もっとも身近で、もっとも重要な教材といえます。教科書の使用頻度を高め、活用のレパートリーを広げたり、バージョンアップを図ったりしながら、教科に関する興味・関心を高め、基礎・基本を定着させることができます。教科書の活用方法の例として、10個あげてみました。

アナログ（教科書）とデジタルのハイブリッドを進めながら、この困難な状況の中でも、自ら学び、考える力を養っていきたいと考えます。

①「教科の見方・考え方」を学ばせよう

生涯にわたって続けることが求められます。中学校教科書の内容は、高等学校で学ぶ内容の基礎ですが、社会人としてスタートするために必要な知識や考え方が示されています。教科書を活用し、興味・関心を高め、教科を学ぶ目的や意義を理解させ、**教科の見方・考え方**を身に付けさせたいと思います。身につけた教科の見方・考え方を、他の教科の教科書も参照し、教科横断的に生かしながら、社会的課題を探究する力量を養うことが求められます。

②教科書とシラバスを使って見通しを持たせよう

現在は、ガイダンスの時期です。「横中シラバス」や教科書の目次を使って、授業計画について1年間の見通しを持たせます。「横中シラバス」を熟読するだけで、学習の見通しが持てるだけでなく、評価規準（目標）と単元や題材が始まる前のオリエンテーションの際に、教科書を使って時数・内容について伝えます。もちろん、定期テスト、小テストの範囲についても、教科書のページで示します。毎日の授業でも、本時の学習が教科書の何ページに該当するかを伝えます。また、本時の内容が単元・題材のどの部分に当たるかについても確認させるなど**学びのガイドブック**としての機能を持たせます。

③教科書を使った自己学習の方法を教えよう

教科書を活用した家庭学習を促します。「予習→授業→復習→予習→授業→復習→…」のサイクルを確立します（反転学習の工夫）。「教科書を活用した復習・予習の仕方・試験勉強の仕方」「教科書を使ったまとめ方・調べ方」等について具体的に教えます。「勉強が分からぬ生徒、苦手な生徒」は教科書のどこが重要か、何を暗記したらいいのか、が分からぬケースが多いと思います。**能動的な教科書の使い方**を学ばせます。

④教科書を活用して言語能力を育もう

教科書を使って**言語能力の確実な育成**を図ります。正確に、速く読む能力は練習によって身につきます。「読む・書く・聞く・話す（話し合う・発表する）」のスキルを使い、学びの質を高めます。教科書を使って「キーワードに線を引く」「内容を要約する」「要点を図解する（チャート・思考ツールの活用）」「図や写真から読み取れることを記述する」「教科書の資料をもとに論理的なレポートを作成する」等、工夫すれば色々あると思います。

関目小学校 石井校長からは、当日の議題について、自校の取組や全国学力・学習状況調査結果の考察を交えてご意見をいただきました。

令和3年度 第3回 自主学習推進チーム会議資料

大阪市立関目小学校 校長 石井 力

議題① 充実期、発展期での取組方法、課題とは何か。

- 導入期 → 充実期 → 発展期 ○導入期の状況→ 「自学の芽」を養う
- 学校全体で取り組みつつも、それぞれの教員のアイデア、実践に委ねながら取り組み始めた
- 各学級では、児童生徒の相互交流の場の設定等、児童生徒への意欲付けになるように取組を工夫した
- 学校全体では、自主学習ノートの活用や全体表彰等、児童生徒の意欲付けを工夫した
- 教員間では、工夫した取組について情報交換してきた（若手教員が中堅から学ぶ機会にもなった）
- 試行錯誤し、様々な取組を続けてきたことで、自主学習が形(成果)となってあらわれ始めた
- 課題…導入期をふり返り、点検すべきポイントは何か
 - ①個人差が見られること(関心が向かない/やり過ぎる)
 - ②充実期に向かうために、意欲付けにつながるしきけや一定のルール作りが必要か
 - ③宿題と自主学習の両立？または、自主学習の位置づけについて整理する必要がある

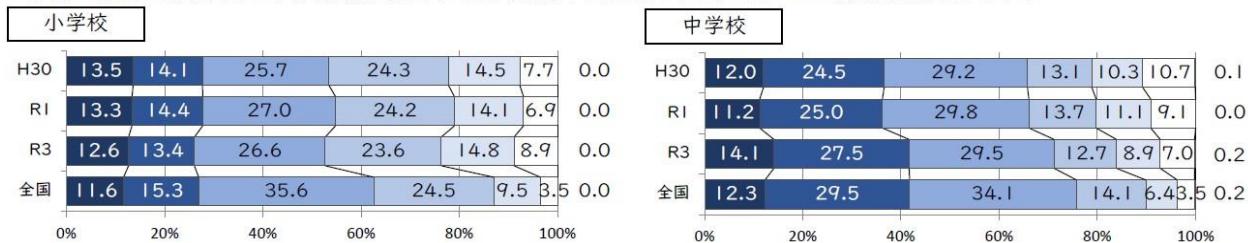
○充実期に向けて何が必要か → 「続ける」、自主学習習慣の定着に向けて

□学校全体で、「何故、自主学習が大切なのか」、自主学習の必要性や意義について再確認する

●令和3年度 全国学力学習状況調査から(本市HPより)

(ア) 小・中学生ともに、全国と比較して、1日当たりの勉強時間が短い

- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



(左から「3時間以上」「2時間以上3時間未満」「1時間以上2時間未満」「30分以上1時間未満」「30分未満」)

「全くしない」と答えた児童・生徒の割合。)

(イ) 小学生は、全国と比較して、テレビゲームをする時間が長い

- 月曜日から金曜日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



(左から「4時間以上」「3時間以上4時間未満」「2時間以上3時間未満」「1時間以上2時間未満」「1時間未満」)

「全くしない」と答えた児童・生徒の割合。)

家庭への協力依頼

授業以外の学習時間やテレビゲームをする時間と、教科の平均正答率の間には関係があります。確かな学力を身に付けるには、テレビゲームをする時間を見直したり、自主的な学習を計画したりするなど、授業時間以外の学習習慣を定着させることが大切です。家で過ごす時間が増えている中、ご家庭での過ごし方について、今一度お子さまと話し合ってみてください。

□自主学習の手立てについて、教員間でアイデアを共有する

- ・児童が相互に自学ノートを見合える場の設定
- ・背面黒板を利用した自学ノートの紹介
- ・自学ノート作りのルール(日付、取り組んだ時間、最後にふり返りのコメント等)
- ・自学ノートの提出・点検の頻度
- ・自学ノート以外のリソース
- ・家庭で自主学習に取り組む時間
- ・学校で自主学習に取り組む時間の確保
- ・学級だけでなく学年や学校としての取組
- 等

□それぞれの学年（中・高学年でも可）で、「どの程度取り組めばいいのか」目安を設定する

- ・学年×10 分程度？

□自主学習のリソースを増やす

自学ノートの活用、教科学習、自学に活用できるドリルプリントの準備、ICT機器、新聞・読書、自分の趣味や夢 等

□自主学習の充実に向けて、「教師自身の役割」を再確認する

- ・肯定的に励ます
- ・児童生徒同士をつなぐ
- ・児童生徒が自由に使える自学の素材を準備する
- ・学校でも自学の時間を設ける
- ・自主学習が進まない児童生徒への個別支援等、自主学習についての定期的な個別面談
- ・自主学習で何をねらうか → 自主学習習慣（学習意欲、自立した学習）、自己肯定感
- ・保護者への説明・お知らせ（学校だより、学年だより等）
- 等

議題② 自主学習において、ICT 機器を活用するために必要なこと、課題とは何か。

□必要なこと

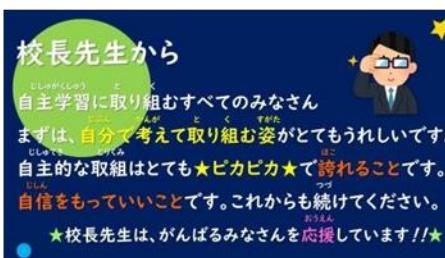
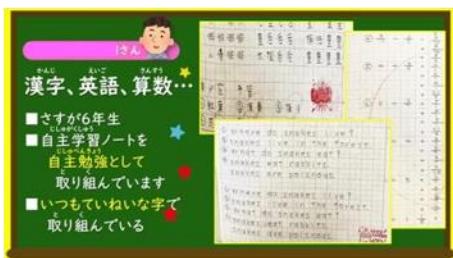
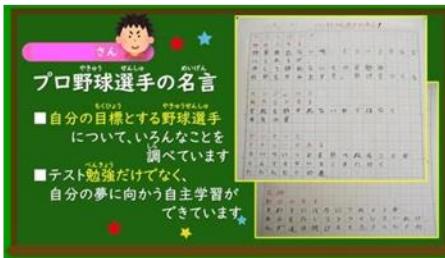
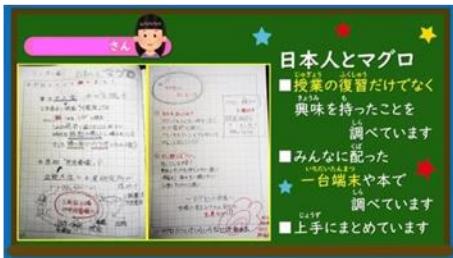
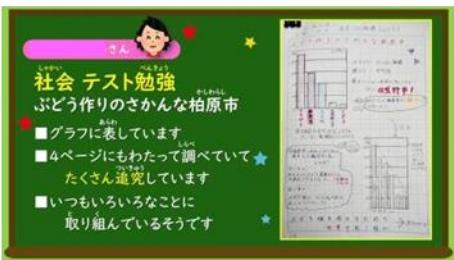
- ・日頃から、授業で一台端末を活用する 調べる、まとめる、動画視聴、発展的な学習
→ 学年の指導目標として
- ・日頃から、一台端末を自由に持ち帰る → 取扱いの留意点を確認する
- ・日頃から、自主学習に機器活用しても構わないことを伝えておく
- ・家庭での活用についてのきまりを確認する
- ・どういうことに使えるのか、学級で考えを出し合う
- ・保護者へのお知らせ

□課題

- ・活用の個人差 → 機器活用への関心が高まる工夫
- ・機器活用の約束の徹底（書き込み、ダウンロード、ID・パスワード等の情報流出等）
- ・目の健康

関目小学校では、児童朝会で校長先生自らがパワーポイントを作成され、自主学習についての説明や、表彰を行っていらっしゃいます。【参照：自主学習通信第3号（令和3年12月1日発行）】

□児童朝会における自主学習についての講話と表彰（学期に1回）3学期：3月8日(火)



自主学習推進メンバー「学び隊」からのメッセージ



豊崎本庄小学校 米田 昌敏 先生

自主学習推進に携わらせていただき、様々なご意見をお聞きすることで、新たな発見がたくさんありました。児童と指導者両方が負担なく続けていけることが大切で、そのような環境づくりを今後も考えていきたいです。

高倉小学校 藤原 愛子 先生

自主学習を子どもたちが主体的に取り組むように、自主学習推進チーム会議を通して第2教育ブロック全体で情報共有することができました。今年度の成果課題を来年度に活かし、自主学習がさらに発展していくよう努めたいです。

海老江東小学校 中 渉 先生

会議には一度しか参加することができませんでしたが、自主学習と授業を関連させた取り組みや、専門的知見の高い中学校の先生方の自主学習の取り組みなどを聞くことができ、大変勉強になりました。有難うございました。

北中道小学校 姜 舜日 先生

他校の自主学習の様子や取り組みを知ることができ大変参考になりました。自分の学級で取り組むのはもちろん、校内でも取り組みを紹介することができました。まだまだ子どもたち全員が取り組めるまでには至っていませんが、少しでも子どもたちのモチベーションのUPにつながるようにこれからも研修で学んだことを活かしていきます。

大宮小学校 谷 真彰 先生

第2ブロックでの自主学習の取組が昨年度以上に活発なものになってきたことを、うれしく思います。保護者・教職員が一丸となり、学びの環境を整え、自ら学ぶことのおもしろさに一人でも多くの子どもたちが気付いていけるよう、今日からできることを始めていきましょう！



関目小学校 保科 智子 先生

自主学習は、将来の自分の姿を想像し、近づけていくために今何ができるかを考え、形にしていけるものだと思っています。自分の課題を見つけ、その解決のために、いろいろなツールを用いて主体的に学んだり、「なりたい自分」になるために、学習や興味あることを探究できる習慣をつけたりすることが大切だと思います。

横堤小学校 中森 裕崇 先生

継続的に自主学習に取り組むことで、習慣化してきた。また、一人一台端末を使って、調べるということも定着してきた。ICTと自主学習の組み合わせは相性がよく、自主学習を進めることでICTスキルも向上した。

今後は、ノートだけではなく、一人一台端末で完結するような自主学習を積極的に取り組んでいきたい。

大宮中学校 下谷 明大 先生

家庭にはマンガやYouTube、友人と遊ぶなど、児童・生徒の『今やりたいこと』がたくさんあります。その中で、自主学習に励むことのできる子どもを育していくことは、とても難しいことです。子どもが自ら積極的に学習に取り組めるように、これからも考えていきます。

董中学校 金井 秀勲 先生

2年間本教育政策に関係させていただきありがとうございました。この2年間で一番感じていることは、家庭学習を自発的に行う生徒を育てるには、毎回の授業理解を深めることが最善だということです。授業改善頑張ります。

緑中学校 土倉 ゆかり 先生

新学年に向け、学習への意欲が高まる時期です。毎日の授業のノートを自分なりにまとめさせる、調べたことを追加させるなど、「自分だけの授業ノート」を作らせるのもいいかもしれません。自主学習を通して生徒たちが新しい自分に成長していけるよう、がんばりましょう。



学び隊のみなさん、
お忙しい中、会議への参加、資料作成等、
本当にありがとうございました。

これからも、みんなに
様々な情報を届けられる
よう、頑張るでござるよ。



自主学習推進チーム会議に参加して

横堤中学校 井寄 芳春 校長

「自ら学ぶ教師のもとで、自ら学ぶ子どもが育つ」。

チーム会議に参加し、このことをあらためて実感しました。自主学習について考えることは、教えることを学び手の側から吟味し続けることといえます。会議では、ノート指導や教材・評価のあり方等、子どもの視点から熱のこもった議論が交わされました。校種や教科の垣根を超えて集まった知見は、今後、第2教育ブロックの子どもたちの学びの深化・充実に生きてくると確信しています。

自主学習習慣の定着に向けて

関目小学校 石井 力 校長

「自主学習習慣の定着」に向けて推進チーム会議を開いて2年。取組の成果が少しずつ表れています。各校の様々な実践や推進会議での議論等、自主学習習慣の定着をめざす教員の創意工夫と熱意にたくさん触れることができました。1日当たりの「勉強時間が短い」「テレビゲームの時間が長い」という調査結果(全国学力学習状況調査 本市全国比較)をふまえ、今後も、粘り強く追究していきたいと存じます。たくさんのご協力ありがとうございました。

「新たなステージへ」

自主学習推進チーム会議 事務局

令和2年度から「ブロック化による学校支援事業」が始まり、第2教育ブロックでは「自主学習習慣の確立」を目的とし、各校において工夫を凝らした取組を進められるよう支援してまいりました。

事務局からは、「自主学習通信」の発行や自主学習推進チーム会議を開催し、自主学習の導入期における取組事例の紹介や、課題について協議してまいりました。

次年度は、第3回自主学習推進チーム会議の議題にもあったように「充実期、発展期」での課題整理や、ICT機器を用いた自主学習の取組等が円滑に進められるよう、情報を発信してまいります。

各校での特徴ある取組なども紹介してまいりますので、ご協力をお願ひいたします。